

公益財団法人
ひょうご震災記念21世紀研究機構
ニュース

Hem21

NEWS

「Hem21」は、ひょうご震災記念21世紀研究機構の英語表記である
Hyogo Earthquake Memorial 21st Century Research Instituteの略称です。

令和元年(2019) 7月

Vol.
76

CONTENTS

- ① 令和元年度
研究体制とミッション
- ②～④ 情報ひろば
- ⑤ HAT神戸掲示板
- ⑥～⑧ 人と防災未来センター
MiRAi

令和元年度 研究体制とミッション

南海トラフ地震に備える政策研究

主任研究員

稲見 直子、山村 奈津子、越智 萌、小林 悠太、吐合 大祐

今後30年以内に70～80%の確率で発生するといわれている南海トラフ巨大地震に備え、「国と社会」、「被災社会」の双方の観点から、地震の被害想定とそれに備えた対策のほか、震災後の復興組織・体制や復興財源確保の手法、生活支援、コミュニティや住宅の再建など多分野にわたって体系的に研究し、具体的な復興像が浮かび上がるような、事前対策や復興政策のあり方を提言する。



稲見研究員



山村研究員



越智研究員

ひょうご震災記念21世紀研究機構研究戦略センターの令和元年度研究体制をご紹介します。

研究調査部では防災・減災の社会づくりに資するとともに、21世紀文明のあり方について研究し、国内外の政策形成に情報発信すべく、研究調査の推進を図っていきます。

東日本大震災復興の総合的検証 ～次なる災害に備える～

主任研究員

石塚 裕子、小林 悠太

東日本大震災の復興プロセスを、テーマ別(避難・住まい、生業、教育、原子力災害、支援制度、伝承)に調査分析を行うとともに、3県(岩手、宮城、福島)知事ならびに県下の14市町の自治体首長等のオール・ヒストリー調査を実施し、東日本大震災復興を総合的に検証した。それによって得られた知見をもとに南海トラフをはじめとする今後の大規模災害に備えるための政策提言をとりまとめるとともに、広く一般に伝えるための書籍化を行う。



石塚研究員



小林研究員

広域経済圏活性化による経済成長戦略

主任研究員

吐合 大祐、劉 雯、越智 萌

ひょうごの都市や地域を企業にとって魅力ある場とし、経済成長のための産業育成や企業の立地促進等、京阪神地域を中心とする広域経済圏の活力を活かした経済活性化策を様々なアプローチを用いて探り、低迷するひょうご経済の復活を目指し、地域と国全体の成長につながる産官学が連携した政策モデルを検討・提案する。



吐合研究員



劉研究員

ソサエティ5.0(AI・ロボット社会)に向けた制度設計

主任研究員

伊藤 ゆかり

出生率の低迷と支援策、高齢者の貯蓄と就業の状況、高齢者の健康の状況、育児や介護などの時間の制約を抱える者の就労環境を整える取り組みを分析し、深刻化する少子高齢化に直面する日本やアジア諸国における新たな制度設計を検討してきた。その解決の方向性として、AI・ロボット・IoTなどの活用による人間中心の社会の実現を目指すソサエティ5.0に向けた政策提言を行う。これまでの研究成果を踏まえて今年度は課題を絞り込んだ上で予備的調査を開始する。



伊藤研究員

研究戦略センター

「ひょうご講座2019」開催のご案内

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構では、培ってきた大学、研究機関等とのネットワークのもと、テーマ性を明確にし、様々な分野における学術的かつ専門的な大学教養レベルの連続講座による高度な学習機会を提供します。

今回から従来のコースに加え、リカレントコースを開設します。この機会にあなたもぜひ受講してみませんか。

■一般コース

●開講分野等

分野名	開講時期
防災・復興－多発する災害からのちと暮らしを守る	9月13日(金)～12月2日(月)
地域創生－ひょうご五国の魅力とこれからの地域づくり	9月11日(水)～11月25日(月)
国際理解－不安定化する国際情勢の行方を読む	9月19日(木)～12月6日(金)

- 回数＝10回(1分野)
 - 開講時間＝平日18:30～20:00
 - 受講料＝15,000円(1分野)
 - 定員＝約40人(1分野)
 - 開講場所＝兵庫県民会館(神戸市中央区下山手通4-16-3)
- ※各分野の開講日等詳細については、後記「ひょうご講座」ホームページでご確認ください。

《内容の紹介》

『防災・復興－多発する災害からのちと暮らしを守る』

阪神・淡路大震災から25年、全国で災害が多発するなか、「忘れない」「伝える」「活かす」「備える」取り組みが重要との認識のもと、一人ひとりや地域全体の防災力を高め、いのちや暮らしを守る取り組みについて学び、私たちは安全な社会をめざして何をすべきか考えます。

『地域創生－ひょうご五国の魅力とこれからの地域づくり』

兵庫県は、摂津、播磨、但馬、丹波、淡路の五国から成り立ち、古代に定められた広域行政単位の五畿七道で見ても、畿内、山陽道、山陰道、南海道がモザイクのように入り組んでいます。交通の要衝でもあり、マージナルな地域でもあったことから豊かな文化や地域資源が育まれてきました。人口減少・高齢化が急速に進むなかで、こうした資源を活かして、新たな時代にふさわしい地域づくりをどのように進めるべきか全国各地の事例にも学びつつ、考えます。

『国際理解－不安定化する国際情勢の行方を読む』

米中の軋轢の拡大、米露対立、英国のEU離脱問題など我が国を取り巻く国際情勢は厳しさを増しており、世界的なポピュリズムの伸長などもあって混迷の度を深めています。こうした世界の動向について学び理解を深めることにより、これからの我が国の進むべき方向や役割について考えます。

■リカレントコース

現役の社会人等の専門的な学び直しの機会を設け、キャリア

アップや起業・転職に向けたセカンドキャリア構築の一助とするため、新たな時代の経営戦略や高度なデータ処理・分析力などを習得するための入門講座として開設します。

●開講分野等

分野名	開講時期
経営戦略－経営の管理能力アップをめざす	9月12日(木)～10月24日(木)
データサイエンス－ビッグデータ、AIとその周辺を読みとく	9月17日(火)～12月3日(火)
AI活用実習－AI活用のための基礎技術とその応用を学ぶ	10月31日(木)～11月28日(木)

- 回数＝5回または10回
 - 開講時間＝平日18:30～20:00
 - 受講料＝5回講座は7,500円、10回講座は15,000円
 - 定員＝約20名(1分野。ただしAI活用実習は20名限定)
 - 開講場所＝兵庫県民会館またはJEC日本研修センター神戸元町
- ※各分野の開講日等詳細については、後記「ひょうご講座」ホームページでご確認ください。

《内容の紹介》

『経営戦略－経営の管理能力アップをめざす』

IT化、グローバル化など企業を取り巻く経営環境は大きく変化しています。こうした状況に的確に対処できるよう、事業承継をはじめMBA(経営学修士)教育の中核科目について学ぶことにより、「理論と実践」をベースにアカデミックな教養と実践的な経営能力を高めます。

『データサイエンス－ビッグデータ、AIとその周辺を読みとく』

情報科学技術のめざましい進歩は、社会のあらゆる領域に多大な影響を与えています。とりわけ、ビッグデータ、人工知能(AI)などの活用が注目を集めています。こうした技術とはどのようなものなのか、現実にはどのように展開されているのか、関連諸分野を含めて学びデータサイエンスの基礎的な知識や分析手法などを習得します。

『AI活用実習－AI活用のための基礎技術とその応用を学ぶ』

ビッグデータの普及を背景にAIは急速に進化し、次世代産業などを担う原動力として注目を集めています。こうしたなか、AI活用で多用されるプログラミング言語Pythonによる機械学習プログラミングに取り組みます。PCを使った実習を通して、実際に手を動かして機械学習プログラムを体験することで、その基本技術に対する理解を深め、今後の応用につながる実践的な知識や技能を身につけます。

応募方法

- 募集締切＝9月6日(金)必着(インターネット、FAX、郵送で受付)
※ただし、「AI活用実習」については、10月24日(木)必着としますが、申し込みが20名に達した時点で締め切ります。
- 申し込み・問い合わせ先
(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構
研究戦略センター 交流推進課 ひょうご講座担当
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2
人と防災未来センター東館6階
TEL 078-262-5713 FAX 078-262-5122
<http://www.hyogo-ai.jp/kouza/>

ひょうご講座 検索

～伊勢湾台風60年シンポジウム～ 第9回 自治体災害対策全国会議のご案内

阪神・淡路大震災以降、世界各地で様々な大災害が多発するなか、全国の自治体職員がその都度異なる形で襲来する災害に対して、迅速・的確に対応できるよう、被災自治体の復旧・復興への取組を情報共有し、今後の災害への備えについて考える「自治体災害対策全国会議」を平成23年度から毎年開催しています。

今回は、伊勢湾台風から60年を迎える三重県で開催し、地球規模の気候変動が指摘されるなか、大規模風水害などから命を守るための迅速・的確な避難の徹底や早期の復旧・復興に向けた事業継続方策など、過去の災害の経験や教訓に学び今後のあるべき取り組み方策について考えます。

- 日時=9月19日(木)、20日(金)
- 場所=プラトンホテル四日市(三重県四日市市)
- プログラム
 - 1日目:9月19日(木)
 - 伊勢湾台風60年記念対談:
 - 鈴木 英敬 三重県知事
 - 河田 恵昭 関西大学社会安全学部・社会安全研究センター長・特別任命教授/人と防災未来センター長
 - 基調講演:「大規模風水害に学び備える」
 - 平石 哲也 京都大学防災研究所教授
 - 基調報告:「平成30年7月豪雨災害への対応と教訓」
 - 三村 裕史 広島県熊野町長
 - 中間総括:室崎 益輝 自治体災害対策全国会議 企画部会長
(兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科長・教授)
 - 2日目:9月20日(金)
 - 特別報告:「大規模風水害への対策について」
 - 国土交通省水管理・国土保全局河川環境課水防企画室長 常山修治
 - パネルディスカッション第1部:
 - 「大規模風水害等における避難対策」
 - 座長:川口 淳 三重大学大学院工学研究科准教授
 - 報告者:
 - ・「大規模風水害時の避難対策」
和歌山県那智勝浦町 寺本 斉弘(総務課防災対策室長)
 - ・「四日市市の水防災への取り組み」
三重県四日市市 森 智広(市長)
 - ・「広域避難対策の取り組み」
茨城県 大島 寿哉(防災・危機管理部防災・危機管理課 副参事)
 - パネルディスカッション第2部:
 - 「大規模風水害等からの社会経済機能の確保」
 - 座長:渡辺 研司 名古屋工業大学大学院工学研究科教授
 - 報告者:
 - ・「おおさかタイムライン防災プロジェクト」
大阪府 美馬 一浩(都市整備部河川室河川整備課長)
 - ・「香川県版DCPの取り組み」
香川大学(香川地域継続検討協議会)
磯打 千雅子(IECMS地域強靱化研究センター特命准教授)
 - ・「三重県の企業等に対するBCP策定支援の取り組み」
みえ企業等防災ネットワーク
川合 一明(運営委員/みえ防災・減災センター企業防災アドバイザー)

総括討議

五百旗頭真 自治体災害対策全国会議事務総長
(ひょうご震災記念21世紀研究機構理事長)
室崎 益輝 自治体災害対策全国会議企画部会長
(兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科長・教授)
川口 淳 三重大学大学院工学研究科准教授
渡辺 研司 名古屋工業大学大学院工学研究科教授
※プログラム内容は変更する場合があります。

- 定員人員=200名
(自治体職員に限らずどなたでも参加していただけます)
- 参加費=無料
- 申込方法=下記のホームページに掲載している「第9回自治体災害対策全国会議チラシ」をダウンロードし、FAXまたはEメールで下記へお申し込みください。
- 申し込み・問い合わせ
(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構
研究戦略センター 交流推進課
TEL 078-262-5713 FAX 078-262-5122
Eメール zenkoku@dri.ne.jp
http://www.hemri21.jp/dcp/index.html

兵庫自治学会事業のご案内

① 研究発表大会

令和元年度の研究発表大会を以下のとおり予定しています。どなたでもご参加できますので、ぜひお越しください！(参加無料)

※参加申込書(チラシ)は、8月下旬に当学会ホームページ(<http://hapsa.net/>)にアップする予定です。

- 日時=10月12日(土)11:00~16:30(予定)
※兵庫自治学会の会員は、10時30分に予定している総会にもご参加ください。
- 場所=兵庫県立大学・神戸商科キャンパス
(神戸市西区学園西町8-2-1)
※神戸市営地下鉄「学園都市」駅下車徒歩約10分
- 大会テーマ
「外国人労働者の受け入れに向けて一地域社会の課題と対応」

少子高齢化が急速に進む中、労働力が逼迫し、外国人労働者の受け入れが避けられない状況となっています。それに伴う雇用条件や就労現場での様々なトラブルに限らず、外国人の増加は、文化や習俗の違い、言葉の壁などもあって既存のコミュニティとの軋轢や不安感の広がりも懸念されます。外国人労働者の受け入れは、地域社会にどのような変容をもたらすのか、多文化共生や社会の多様性の観点からどのように対処すべきかなど、これからの地域社会のあり方などについて幅広く考えます。

- 総会=10:30~10:50
- 全体会=11:00~12:30
基調講演 講師 山脇 啓造 氏
(明治大学国際日本学部教授、早くから多文化共生社会の形成に向けた様々な政策を提言。総務省、外務省など関係府省や地方自治体の外国人施策に関する関連委員などを歴任)



情報ひろば

- 分科会=13:30~16:30
日頃の研究成果の発表や意見交換等

②グループ研究応援事業、コラボレーション・プロジェクト事業
会員の皆様向けの支援事業は、いつでもお申し込みいただけます。詳しくは、当学会ホームページで。

③兵庫自治学会セミナー

どなたでもご参加いただけます。時期は、来年2~3月頃を予定しています。お楽しみにお待ちください。(参加無料)

兵庫自治学会とは、県政および県内市町行政の振興と地域の発展のために、行政や地域に関するさまざまな課題について研究し、課題解決のための政策形成能力の向上と、組織や職種を超えた幅広いネットワークづくりを目指している団体です。480人の方に会員登録をいただいています。

会員の皆様には、上記②の支援や全米公共・行政学会への派遣支援、学会誌、会報の送付を行っています。

■会員になるには

次のいずれかに該当する方ならどなたでもご入会いただけます。年会費は2,000円です。この機会にぜひ下記入会フォームを開いて入会いただくと幸いです。

兵庫県職員、県内市町職員、県内に在住または在勤の学識者・NPO職員・個人

※当学会では、月1回程度会員でご希望の皆様にメールマガジンを配信しています。所属の異動やメールアドレスが変更になった方は、お知らせください。

申し込み・問い合わせ

兵庫自治学会事務局((公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構研究戦略センター内)

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

人と防災未来センター東館6階

TEL 078-262-5713 FAX 078-262-5122

Eメール gakujuutsu@dri.ne.jp

http://hapsa.net/ ◀入会フォームはこちら

◎ こころのケアセンター

2019年度第1期「こころのケア」研修の受講生募集

兵庫県こころのケアセンターでは、「こころのケア」に携わる保健・医療・福祉・教育等の分野で活動されている方を対象に、各種課題への対処法等について学ぶ「こころのケア研修」を実施しています。

9月から10月にかけて実施する研修の受講生を次のとおり募集しています。ぜひご参加ください。

● 研修概要

区分	コース名	期間	定員	対象	受講料 (資料代等)
専門 研修	①DV被害者のこころのケア	9月18日(水)	35名	母子自立支援員、女性相談員(婦人相談員)、婦人保護施設職員、母子生活支援施設職員、家庭問題相談員、保健師、福祉事務所職員、こども家庭センター(児童相談所)職員等DV被害者相談支援関係職員	2,500円
	②被害者や被災者の中長期の回復を支えるこころのケア-サイコロジカル・リカバリースキル(SPR)-	9月25日(水) 26日(木) (2日間)	35名	医師、臨床心理士、看護師、保健師、精神保健福祉士、その他関連領域の関係者	3,500円
	③犯罪被害とこころのケア	10月17日(木) 18日(金) (2日間)	25名	保健・医療・福祉・教育・司法・警察・消防関係等職員	4,100円

● 場所=兵庫県こころのケアセンター

● 申し込み方法=受講申込書(※)に必要事項を記入の上、郵送・FAX・Eメールで下記照会先までお送りください。申込者多数の場合は、各研修開始日の1カ月前(前月の同じ日)の17時を期限として、初めて受講の方を優先の上、抽選で受講者を決定します。

※当センターホームページよりダウンロードできます。

● 申し込み・問い合わせ

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構

兵庫県こころのケアセンター 研修情報課

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2

(阪神「春日野道」駅から南へ徒歩約8分)

TEL 078-200-3010 FAX 078-200-3017

Eメール kensyu@j-hits.org

http://www.j-hits.org/

情報誌やwebサイト、ロゴ制作など、
広報戦略・ブランディングの
ご相談を承ります

IDÉE INC.

株式会社 イディー
〒650-0033
兵庫県神戸市中央区江戸町85-1
ベイ・ウイング神戸ビル10F
Tel 078-331-5255 Fax 078-331-7800
E-mail info@idee-kobe.com

イディー 神戸 検索

コミュニティ型ワーキングスペース
「ON PAPER」はじめました!



ON PAPER

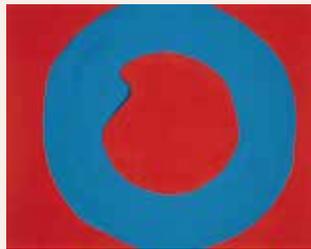
https://onpaper.jp

ONPAPER 検索

兵庫県立美術館

ICOM 京都大会開催記念 集めた!日本の前衛—山村徳太郎の眼 山村コレクション展

「山村コレクション」とは、兵庫県西宮市に在住していた企業家、山村徳太郎(1926-1986)が収集した戦後日本の前衛美術の作品群です。山村の没後、兵庫県立近代美術館(当時)へ68作家167点が一括収蔵され、現在も同館現代美術コレクションの核となっています。将来的に公共の財産となることを念頭に集められた作品群は、個人の収集品とは思えぬ大きさと質を備えており、個々の作品は同館ほか国内外で度々展示される一方で、まとめて紹介される機会には限られてきました。



吉原治良(作品)1966年(第1章に展示予定)

このたびの展覧会では、企画展示室に加え別棟のギャラリーも会場に、約20年ぶり、かつ過去最大規模の出品点数により、「山村コレクション」の全体像を紹介します。

- 会期=8月3日(土)~9月29日(日)
- 観覧料=一般1,300円、大学生900円、70歳以上650円、高校生以下無料



白髪一雄(黄帝)1963年(第III章に展示予定)

コレクション展II 小企画「美術の中のかたち 一手で見る造形 八田豊展 流れに触れる」

兵庫県立美術館は1989年度より「美術の中のかたち一手で見る造形」展を開催してきました。30回目となる今回は、八田豊(はった・ゆたか1930年福井県生)氏を出展作家に迎え、氏が1990年代より制作を続けてきた「流れ」シリーズを展示します。視力を失った作家が指先の感覚を頼りに作った作品に触れることで、その制作の軌跡を追体験するとともに、素材の性質がそのまま生きた作品を手で鑑賞する楽しさをご体験ください。

特集1「けんび八景 一新収蔵作品紹介」

兵庫県立美術館のこれまでに収蔵された作品数は10,000以上にのぼり、これらの収蔵品を、年3回開催されるコレクション展で、様々なテーマのもとに展示しています。2019年度の第II期のコレクション展では「けんび八景」(※)と題し、ジャンルや時代の異なる作品群をそれぞれ次の8つの「景色」に見立て、2018年度に新たに収蔵された作品をそれらの「景色」の中で紹介します。



制作風景

特集2「没後80年 村上華岳」

村上華岳(1888-1939)は大阪に生まれ、京都市立絵画専門学校で学び、後半生は神戸の花隈で制作を行った日本画家です。仏や六甲の山々を描いた風景画などを主に描き、墨線を主体とした繊細な線描による精神性の高い作品を発表、その独特な表現は今もなお観る者を惹きつけます。兵庫県立美術館は前身の近代美術館時代より、華岳を兵庫県ゆかりの重要作家と位置づけており、没後80年を迎える本年、当館の華岳コレクションを前期後期に分けて展示し、その絵画の魅力に迫ります。

- 会期=7月6日(土)~11月10日(日)
- 観覧料=一般500円、大学生400円、70歳以上250円、高校生以下無料

◎休館日=月曜(ただし7月15日、8月12日、9月16日、23日開館、翌火曜日休館)
◎開館時間=10時~18時(特別展開催中の金曜・土曜は20時まで)
※入場は閉館の30分前まで
TEL 078-262-0901(代) <https://www.artm.pref.hyogo.jp/>

JICA関西

◆食べることから始める国際協力! JICA関西食堂の月替わりエスニック料理

JICA関西1階の食堂(カフェテリア方式)は、どなたでもご利用できます。完全禁煙で、安心して料理を楽しめ、子供椅子もご用意していますので、お子様連れも歓迎です。毎月の月替わりエスニック料理も好評いただいております!ぜひ、お気軽にお立ち寄りください。



写真は7月の南アフリカ共和国料理

JICA関西食堂

▶<https://www.jica.go.jp/kansai/office/restaurant/index.html>

- 営業時間=(昼)11時30分から14時まで
(夜)17時30分から21時まで
※各終了30分前ラストオーダー
- 定休日=年中無休(年末年始を除く)

月替わり
エスニック料理の
詳細と写真は
こちら→



◎問い合わせ

JICA関西(独立行政法人国際協力機構関西センター)総務課
TEL 078-261-0346 FAX 078-261-0342
Eメール jicacsic-event@jica.go.jp
その他、詳細はJICA関西ホームページをチェック!
▶<http://www.jica.go.jp/kansai/>

日本赤十字社 兵庫県支部

救護員辞令交付式

災害発生時に、即座に医療救護班が出動するためには、度重なる訓練や救護資機材の整備が欠かせません。兵庫県支部においても、管内の各施設において救護班を編成し、5月に救護員辞令交付式を行いました。

日本赤十字社は、国内災害救護を事業の柱として、国際救援、ボランティアの育成やとっさの手当を学べる講習会の普及など、「苦しんでいる人を救う」ための活動の財源としてお寄せいただいたご寄付を活用させていただいております。

皆さまのご支援ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。



いのちと健康を守る赤十字活動は、皆さまからお寄せいただく活動資金で成り立っています。

- 郵便局・ゆうちょ銀行からご協力いただけます
口座記号番号 01110-0-1136
口座加入者名 日本赤十字社兵庫県支部
※窓口で取り扱いの場合、振込手数料は無料です

◎問い合わせ

TEL 078-241-8921(振興課)

赤十字 兵庫 検索



スポット展示「震災資料のメッセージ」

5月28日(火)に人と防災未来センター西館3階のスポット展示「震災資料のメッセージ」の展示入れ替えを行いました。令和元年度前期の展示は、イチローの現役引退にちなんで「1.17と野球」です。

阪神・淡路大震災に見舞われた平成7(1995)年当時、オリックスブルーウェーブは神戸を本拠地としていました。イチローをはじめとする選手たちは「がんばろうKOBE」を合言葉に、被災者たちを強く勇気づけました。選手たちも被災して大変な中、被災した子どもたちと一緒に遊んで交流する激励イベントを何度も開催したり、仰木監督らは被災した子どもたちを無料で野球観戦に招待したりしました。オリックスが試合で勝利をおさめるたびに、神戸はどんどん活気づき、一致団結していきました。そして、平成7(1995)年に11年ぶりのパ・リーグ優勝を飾り、翌平成8(1996)年には日本一へと輝きました。

今回の展示では、オリックス野球クラブから寄贈された、パ・リーグ優勝記念グッズと「がんばろうKOBE」が印字されたユニフォームを展示するとともに、平成7(1995)年のオリックスブルーウェーブのあゆみをまとめた年表パネルで震災当時を振り返ります。

前期の展示は11月24日(日)まで開催予定です。また、西館5階の資料室にてオリックス関連の図書特設コーナーを設けていますので、そちらも併せてご覧ください。



震災当時の各新聞紙より資料室作成



がんばろう神戸 VICTORY ステッカー



山口高志氏ユニフォーム



Blue Wave テレフォンカード



オリックスブルーウェーブ葉書

第22回減災報道研究会(震災報道研究セミナー)開催

人と防災未来センターでは、さる5月14日(火)に、報道関係者、自治体職員、研究者等86名の参加による第22回減災報道研究会(震災報道研究セミナー)を開催しました。

当センターでは、これまでから、災害時に連携すべき報道機関と行政機関が、互いに理解し、協力関係を構築しておくことを目的として、減災報道研究会を開催しており、昨年度までに21回を重ねたところです。

今年度は、平成7(1995)年1月17日に発生した阪神・淡路大震災から25年にあたり、改めて震災の経験と教訓を振り返り、当時の震災報道を経験していない若い記者の方々をはじめ、マスコミ関係者、研究者及び行政関係者を対象に、兵庫県と共同でタイトルを「震災報道研究セミナー」として開催しました。

テーマを「阪神・淡路大震災と震災報道の教訓」として、まず、河田人と防災未来センター長から、「阪神・淡路大震災について」と題した講演をいただき、参加者との質疑応答が行われました。続けて、高士神戸新聞社代表取締役会長から、「震災報道の現場で起きたこと」と題した講演をいただきました。高士会長は、震災当時、社会部兵庫県政キャップとして、震災当日から取材にあたられており、生々しい経験談を語られました。その後の

質疑応答では、途中から、河田センター長も加わり、活発な意見交換が行われました。参加者からは、「災害史の中で阪神・淡路大震災をどう位置づけるかを考えるきっかけをいただいた。」「震災当時の取材にあたった際の苦労や思いが参考になった。」という感想をいただき全体的に「概ね満足」との評価をいただいています。

また、当日は、改めて震災の経験と教訓を振り返るという趣旨から、セミナー参加者に、当センターの展示視察を案内したところ、16名の参加がありました。こちらも好評で、セミナーの内容を理解する上での一助になったのではないのでしょうか。

▼ 第22回減災報道研究会(震災報道研究セミナー)の実施風景



多くの報道機関関係者、自治体職員、研究者も参加



高士会長のご講演

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

観覧案内・予約 / TEL 078-262-5050 <http://www.dri.ne.jp/>

開館時間

9時30分～17時30分(入館は16時30分まで)
※7月～9月は9時30分～18時(入館は17時まで)
※金曜、土曜は9時30分～19時(入館は18時まで)

入館料金

大人	大学生	高校生/小・中学生
600円(450円)	450円(350円)	無料

[障がい者]

大人	大学生	高校生/小・中学生
300円(100円)	200円(50円)	無料

[70歳以上の高齢者] 300円(200円)

※()は20人以上の団体料金

※毎月17日(休館日の場合は翌18日)は入館無料

休館日

毎週月曜(月曜が祝日の場合は翌平日)、12月31日と1月1日
※ゴールデンウィーク期間中(4月29日から5月5日まで)は無休
※資料室の開室日についてはホームページでご確認ください

交通

鉄道

- ・阪神電鉄「岩屋」駅、「春日野道」駅から徒歩約10分
- ・JR「灘」駅南口から徒歩12分
- ・阪急電鉄「王子公園」駅西口から徒歩約20分

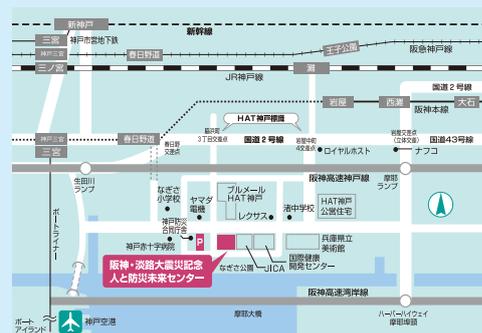
バス

- ・三宮駅から約15分

車

- ・阪神高速道路神戸線「生田川」ランプから約8分
- ・阪神高速道路神戸線「摩耶」ランプから約4分
- ・阪急・阪神・JR「三宮」駅から約10分

●有料駐車場あり ●バス待機所(予約制/無料)あり



「震災対策技術展」大阪に出展

6月6日(木)～7日(金)にコングレコンベンションセンターで開催された「震災対策技術展」大阪にブース出展しました。

阪神・淡路大震災の写真パネル展示や、タッチパネルモニターを活用して震災被害や復旧・復興状況を写真や映像等で紹介しました。

両日とも約300名の方がブースを訪問され、展示フロアリーフレットや減災グッズチェックリスト等人と防災未来センターの資料をお持ち帰りいただき、これまで当センターをご存じなかった方にも知っていただけるとともにアンケートを実施し、センターへの期待などをお伺いする機会となりました。



アンケートの実施



展示ブース

「夏休み防災未来学校2019」開催中

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センターでは、子どもから大人まで楽しみながら防災・減災について学ぶことができる「夏休み防災未来学校2019」を7月20日(土)から9月1日(日)まで開催しています。

昨年度も好評を得た、「じょうぶなストロー建物をつくろう!」「紙でいろいろ作ってみよう!」「ロープワークでミサンガをつくろう!」などの工作ワークショップのほか、大地震の揺れを体験する「地震体験車」、自然災害を科学の視点で学ぶ「サイエンス実験」など多数のプログラムを実施。各プログラムの内容や開催日時、参加申込方法など詳細はWEB(<http://hitobou.com/event/summer/>)で公開しています。

また、8月14日(水)～25日(日)に、西館1階ロビーを会場として「六甲山の災害展」を開催。過去に六甲山で起きた災害に関するパネル展示のほか、土石流実験や豪雨装置などを見学していただけます。

近年、地震や豪雨などさまざまな災害が発生しています。この機会に家族や地域の方々と一緒に人と防災未来センターにご来館いただき、災害について学び、自身の防災につなげてください。



サイエンス実験



ロープワークでミサンガをつくろう



じょうぶなストロー建物をつくろう



Hem21 NEWS
vol.76

令和元年7月発行

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構
〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2(人と防災未来センター)
<http://www.hemri21.jp/>

当機構は、以下の組織で構成しています。

●管理部

TEL 078-262-5580
FAX 078-262-5587

●研究戦略センター

▶研究調査部
TEL 078-262-5570
FAX 078-262-5593

●人と防災未来センター

TEL 078-262-5050
FAX 078-262-5055

▶学術交流部

TEL 078-262-5713
FAX 078-262-5122

●こころのケアセンター

〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2
TEL 078-200-3010
FAX 078-200-3017

ニュースレターに関するご意見・ご感想を機構までお寄せください